

**教授 吉野 浩希 (Hiroko YOSHINO)**

- 専門分野: 建築設計、住宅設計・建築学
- 研究課題: 美的空間を軸とした住居の探求、空間認知と身体行動に関する研究
住居のデザイン手法に関する研究、建築の環境と身体行動に関する研究
- 授業科目: 住宅設計論、建築文化論、建築環境学(建築、住宅文化論など)
- 学 位: 博士(工学)・筑波大学
- e-mail: yoshino@ipc.kumamoto.ac.jp

**准教授 佐藤 寛 (Kazuhisa SAITO)**

- 専門分野: 建築計画、建築設計論、建築まちづくり
- 研究課題: 高齢者の住いへの建築設計の取り組みに関する研究、都市空間の再生・改善する
ための、建築設計・空間計画の探求、住宅環境学(建築・住宅文化論)に関する研究
- 授業科目: 建築設計論、環境計画学、建築環境学(建築・住宅文化論)に関する研究
- 学 位: 博士(工学)・熊本県立大学
- e-mail: saito@ipc.kumamoto.ac.jp

**教授 栗田 祐 (Yu SHIBATA)**

- 専門分野: 地域計画、都市計画、都市社会学
- 研究課題: 地域計画の進歩と都市社会学に関する研究、都市と地域の共生に関する研究
都市社会学の発展と都市社会学の発展に関する研究
- 授業科目: 都市社会学、地域社会学、地域計画論、居住環境学(建築・住宅文化論)に関する研究
- 学 位: 博士(工学)・筑波大学
- e-mail: yshibata@ipc.kumamoto.ac.jp

**准教授 鄭 一止 (Kenichi CHEONG)**

- 専門分野: 都市計画、まちづくり
- 研究課題: 地方都市におけるスプロール化とスポンジ化に関する研究、社会福祉と計画
制度と都市環境に関する研究、都市空間の再生・改善するためのデザイン、社会
環境を軸としたデザインと都市社会学に関する研究など
- 授業科目: 都市社会学、都市社会学、都市社会学(建築・住宅文化論)に関する研究
- 学 位: 博士(工学)・筑波大学
- e-mail: kenichi@ipc.kumamoto.ac.jp

**教授 辻井 万穂子 (Makihiko TSUMIHARA)**

- 専門分野: 建築環境工学、都市社会学、建築学
- 研究課題: 小中学校の教室の自然環境と住居プログラム、影響を電化住宅工場の工場と
住宅の環境評価、工業団地の環境評価、工業団地の環境評価の改善と評価
- 授業科目: 建築環境工学、建築環境学(工学)、都市社会学と建築学
- 学 位: 博士(工学)・筑波大学
- e-mail: tsujii@ipc.kumamoto.ac.jp
- e-mail: tsujii@ipc.kumamoto.ac.jp

**准教授 田中 昭雄 (Akio TANAKA)**

- 専門分野: 建築環境工学、建築環境学
- 研究課題: 建築環境学(建築・住宅文化論)に関する研究、大規模な
環境計画、環境社会学
- 授業科目: 建築環境システム学、環境環境学、住いへの環境計画 など
- 学 位: 博士(工学)・熊本大学
- e-mail: a-tanaka@ipc.kumamoto.ac.jp

**教授 北原 昭博 (Akio KITAHARA)**

- 専門分野: 木質建築学、建築環境学
- 研究課題: 木質建築学(建築・住宅文化論)に関する研究、伝統的な木造建築の継承と発展、都市
環境学(建築・住宅文化論)に関する研究
- 授業科目: 木質建築学、居住環境学(建築・住宅文化論)に関する研究、建築環境学
- 学 位: 博士(工学)・筑波大学
- e-mail: kitahara@ipc.kumamoto.ac.jp

**教授 伊藤 志織 (Shiori ICHI)**

- 専門分野: 建築環境学
- 研究課題: 木・鋼ハイブリッド構法、木と鋼の複合材の構造、鋼・コンクリート複合
構法に関する研究
- 授業科目: 建築環境学(建築・住宅文化論)、木質建築学(建築・住宅文化論)に関する研究
- 学 位: 博士(工学)・筑波大学
- e-mail: shiori@ipc.kumamoto.ac.jp

卒業後の進路

卒業後の主な就職先は、ゼネコン、サブコン、住宅メーカー、一般企業、公務員など多岐に渡ります。また、熊本県立大学大学院環境共生学研究所のほか、他大学への大学院へ進学する者もいます。

平成 30年4月1日現在		
職種【ゼネコン・サブコン】	職種【住宅メーカー】	職種【その他】
大成建設 (株)	住友物産 (株)	TOYO (株)
玉川建設 (株)	エフケーエー(株) (株)	㈱ イーシー
(株) 協誠	住友建設 (株)	㈱ I S K I
(株) フジタ	住友ハウス工業 (株)	コイズミ物産 (株)
三共工業 (株)	セキスイハイム(九州) (株)	玉野総合コンサルタント (株)
新協成 (株)	アイ・ワーク・デザイン (株)	信長島
アール建設 (株)	協誠建設 (株)	熊本電機、熊本電機、
(株) 西条組	タチホーム (株)	信成物産(株)、実務興行 など
(株) 富野建設 など	(株) アネシス	日本放送協会
	(株) エスケーホーム	(株) 熊本銀行
	(株) シアーズ・エム など	日本郵便 (株) など

居住環境学専攻の入試概要

熊本県立大学は、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに、豊かな教養を備え、21世紀の地域社会においては国際社会の発展に貢献できる、有為で創造力豊かな人材の育成に力を注いでいます。

平成 31年4月1日現在			
	実施日	定員	出願資格
自己推薦型入試	10月5・6日	4名	特になし
特別選抜 (推薦入試)	12月1日	4名	学内生の推薦 選抜のみ
一般入試・前期	2月25日	20名	特になし
一般入試・後期	3月12日	12名	特になし

試験内容	
自己推薦型入試	プレゼンテーションと面接
特別選抜 (推薦入試)	小論文と面接
一般入試・前期	センター試験 (900点) 3教科7科目 2時間 (400点) 英語、 物理・生物・化学から1科目
一般入試・後期	センター試験 (900点) 3教科7科目 2時間 (400点) 小論文

お問合せ先

熊本県立大学
Faculty of Environmental Studies
環境共生学部 居住環境学専攻

〒962-8502
熊本県 熊本市 西区 下町1番150号
代表電話: 096-383-2929
FAX: 096-384-6765
http://www.pu-kumamoto.ac.jp



復興まちづくりに学生・教員が取り組んでいます

建築・地域 + エコロジー**居住環境学専攻**

居住環境学専攻の専攻科目は
環境共生学(居住環境学専攻)を専攻しました

居住環境学専攻はこんな人を求めています

- ・図画や絵、デザインが好き!
- ・身の周りの空間をつくってみたい!
- ・地域に強く美しい木造建築をつくってみたい!
- ・自然を利用し、人の心と体にやさしい環境をつくる仕組みに関わりたい!
- ・多くの人が住み、「にぎわい」と「楽しさ」をふれあえる「まち」をつくりたい!
- ・ユニバーサルデザインの建築・まちづくりを目指したい!
- ・さまざまな「すまい」の歴史と文化に興味がある!

そして人に興味をもち、どこにも行って何でも見てやろう!
そんな意欲をもった皆さんを大いに歓迎します。



熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学専攻



居住環境学専攻の教育の特色

他大学の「建築学科」と異なる内容

◎ 自然学を学んだ上で、建築学を学ぶカリキュラム

本専攻は、自然環境と共生した居住環境の創造を目指しています。それにはまず、環境学の学習が重要です。そこで、学科共通科目の「環境共生論」「現代生活と環境問題」「食と環境」の他、様々な科目が選択できます。自然環境への認識を深めながら、居住環境のあり方を考えることができます。



◎ 木と福祉の文化を学ぶ

自然と人にやさしい木の文化と利用を重視しています。特に、従来の建築学科にはない科目「木質構造学」を設け、木の利点と活用を考えています。また「福祉住環境原論」などの科目を設け、福祉の観点からも、共生社会を考えた居住環境のあり方を追求しています。



少人数教育とユニークな科目構成

◎ 少人数（1学年約40名）での、きめ細やかな教育

1学年約40名の学生一人一人の「顔」をみて、それぞれの個性に合わせた教育を行っています。特に、数多く設けられた実験・演習・実習で効果をあげています。

◎ 目標とする進路に合わせて選択可能な、多様な履修モデル

「一級建築士の受験資格」を目指す履修モデルから「環境計画コンサルタント」「構造設計」「設備設計」更には「行政機関」へ進むための履修モデルまで、各人の適性と志望に応じた選択ができる科目構成をとっています。また、大学院博士前期課程（修士）・後期課程（博士）へ進学し、専門性を深めることもできます。

実体験を重視した教育

◎ 実験・演習・実習などの「体験教育」の重視

◎ 様々なフィールドワークの実施

講義で得た知識を確認し、自ら考える力を高めるための実験・演習・実習を数多く設けています。



高度で充実した設備・装置

◎ 高度な木質構造に関する実験装置を備えた実験棟

◎ 任意の温度・湿度を設定・制御し、様々な実験ができる人工気候室

◎ 衛星写真や航空写真から住宅地図までを扱える環境画像システム室

◎ 居住環境学専攻専用の製図室に、ひとり1台の製図台

◎ 先端設備を導入した専攻専用のPC室で行われる、充実したCAD教育

従来の建築学科にはない独自の教育を進めるため、高水準の機器・設備を導入しています。学生は1年次から、他大学の大学院生が用いるような設備を利用して教育を受けています。

建築士の受験資格

他大学の建築学科と同様に、卒業後2年間の実務経験を経て、一級建築士の受験資格を得ることができます。また、卒業後実務経験なしで、二級建築士の受験ができます。

※ 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科、家庭）、高等学校教諭一種免許状（農業）の取得ができます。

■ プレゼミナール ■ 外国語 ■ 健康スポーツ科学 ■ 人間と文化の理解 ■ 国際理解 ■ 地域理解 ■ 現代の科学技術と環境 ■ 現代社会の理解 ■ 情報科学 ■ キャリアデザイン

基盤科目・教養科目

- 環境共生論
- 居住環境を創る
- 現代生活と環境問題
- 食と環境
- フィールドワーク
- 情報処理実習

導入科目

◆◆ 導入科目とは？

居住環境の専門分野に入る前の大切な基礎として、「環境共生に関わる自然や文化」を学びます。

■ 環境共生総合演習

ゼミ形式で専門分野の理解を深め、環境共生と各専門分野との係わり合いについて理解します。

- 数学Ⅰ
- 数学Ⅱ
- 物理Ⅰ
- 物理Ⅱ

■ 図学

- 居住環境デザイン実習Ⅰ
- 居住環境デザイン実習Ⅱ

■ CAD実習Ⅰ

CADに関する基礎知識及び住居設計におけるCADの役割等を学ぶとともに、基本的な機能と操作方法を学習します。

■ 応用情報処理実習

基礎科目

■ 建築史

古代以来の日本と西洋建築の様式の歴史について、特に、近代建築の成立とそれ以降の流れを著名な建築家の作品を例に学びます。

■ 建築構法

鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造などの多様な建築構法の成立や特徴、構成方法について学びます。

■ 建築構造の基礎

建築構造に関する様々な講義を理解していく上で必要となる基本的な知識、および、構造力学の考え方について学びます。

居住環境デザイン実習とは？

快適な居住空間などを創造するための建築設計を学びます。具体的には建築製図法や、図面の描き方、コンセプト及びプランニングの方法などのデザイン手法を習得します。



■ 住空間計画学

住空間の基礎的な知見をベースにして、住空間を創造し設計する、具体的な技術的方法論を学びます。

■ インテリアデザイン論

住空間を豊かに美しく創造するために、照明計画、彩色計画を含めたインテリアデザインの基礎理論と手法を学びます。

■ 建築環境工学Ⅰ

居住環境を調整するために不可欠な、熱環境、空気環境、光環境、音環境の基本理論や現象を、簡単な演習問題を交えながら理解します。

■ 木質構造学

木造・木質構造による建築物に関する興味を深め、その基本的な構法・構造的な特徴について理解します。

■ 地域計画論

地域資源や人々の営みを基礎にしながら、持続可能な地域をどのように実現していくのか、国内外の事例を交えて学びます。

■ 建築計画学

■ 比較住文化論

■ 建築環境工学Ⅱ

■ 環境設備学

■ 居住空間材料学

■ 静定構造力学

■ 静定構造力学演習

■ 不静定構造力学

■ 不静定構造力学演習

■ 比較都市文化論

■ 居住環境デザイン実習Ⅲ

■ 居住環境デザイン実習Ⅳ

■ 木質材料活用論

■ 森林生態学

■ 海洋生態学

■ 福祉住環境原論

高齢者・障がい者に対応した住まいや地域（まち）を計画する上で基本となる福祉住環境整備のあり方や手法について学びます。

■ 環境設備システム学

建築物が快適で省エネな環境空間を形成・保持するために具備すべき設備やシステムについて学び、生活文化としての建築物としての意味を理解します。

■ 鉄筋コンクリート構造学

鉄筋コンクリート構造の設計法に関する基本事項について学び、さらに最も一般的な構造方法であるラーメン構造の柱、梁部材等の設計方法を学びます。

■ 農山村域計画学

農山村の重要な役割、環境共生の仕組みを深く理解するとともに、それらを将来にわたって維持・発展させるための方向性を考えます。

■ 地域景観計画学

景観の概念や景観構造の把握と評価方法、日々の暮らしとの関わりなどを具体的な事例を通して学び、景観形成のあり方について考えます。

■ インテリアデザイン実習

■ 木質デザイン論

■ 環境設備システム学演習

■ 居住環境調整工学実験

■ 環境調整工学

■ 居住空間構造・材料実験

■ 鉄骨構造学

■ 都市計画

■ 都市居住政策学

■ 居住環境デザイン実習Ⅴ

■ 居住環境デザイン実習Ⅵ

■ CAD実習Ⅱ

■ 建築施工学

■ 大気環境学

■ 環境関連法規

■ 環境経済学

■ 地方自治論

学科共通科目

専攻専門科目

■ 卒業研究（論文・設計）

4年間の総まとめとして、これまでに学んだ専門知識および技術を活用して各自が選択あるいは提案した研究テーマにおいて、研究を計画、遂行し、考察を加えて成果を発表します。

■ 環境防災・安全工学

■ 建築法規

■ 公共政策論



4